

ほんとうに田うえは大へん

くり原小学校 三年 え谷 はるぎ

「ぎかいがこし^ようして、なえをうえれな

か」た^ところをうえてくれるか」

と、おじち^やんに言われました。ぼくは、き

よ年少しだけ田うえをして大へんだ。たので、

どうしよかなと、考えていました。でも、

は^がば^が

「や^てみ！」

と言^つたので、田^いん^ぼに入りました。

田^いん^ぼに入ると、土がドロドロで動くのが

お^もす^かしか^つたです。足を前に出そうとして

も^もな^かな^が動けなくて、前にすすむことがで

きませんでした。なえを三本くらいま^とめて

う^えて一^い歩^ふすすんで、また三本くらいう^える

と一^い歩^ふすすんでいきました。一ヶ所う^えるの

い^も、た^とと横を見ながらう^えていくので、

ほん^とうに大へんでした。

も^もっ^ていたなえがなくなる。

「なえを^ちやうだい」

と言うと、ばばかなげてくれました。あせ道に近い時は、ぼくの近くにとどきました。だんだんと遠くなっていくと、い動してなえをとらないといけないので、うえたなえをふまないようにするのがむずかしくて、ころげそうに何でもなりました。

一れつうえるのに、五十分くらいかかりました。うえていると、せ中とこしかいたくなりしました。田んぼの中に入っていた時ほ、土の中だ、たのであたたかかったけど、外に出ると、足がキンキンにつめたくなりました。

ぼくは、一れつしかしなかつたけど、とてもつがれました。むかしの人は、すべて人がうえていたそうです。どのくらいかろののぼくにはわかりません。でも、すぐつかれるだろうなあと、思いました。きかいをつかっても、できないところがあることは、きょう年じりました。おいしいお米をつくるには、とってても大へたなどつづくかんじました。

おいちゃん、おいしいお米ありがとう。